

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触（素材による違いの探究）

<テーマの設定理由>

子どもたちは日常生活の中で様々な素材に触れているが、それぞれの素材の感触や違い、変化をじっくり確かめる機会は多くない。

そこで本活動では「土」「紙」「布」といった素材に触れる体験を通して、素材ごとの感触の違いや、水を加えたときの変化を子ども自身が確かめながら遊ぶことができるよう活動を設定した。

特に土は水の量によって状態が変化する素材であるため、子ども自身が水を加えながら変化を試せるようにした。

また紙や布は日常生活の中で触れる機会が多い素材であることから、素材による感触の違いや遊び方の広がり気付くことを期待した。

2. 活動スケジュール

【土】

1回目：土そのものに触れる

2回目：少量の水を加えて変化を感じる

3回目：水の量を自由に調整し、泥を作って遊ぶ

【紙・布】

1回目：様々な紙素材に触れる

2回目：様々な布素材に触れる

3回目：紙と布の両方を用いて遊ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【土】

1回目：土、トレー、タライ、器

2回目：土、トレー、水（少量）、器

3回目：土、タライ、水（タライ一杯分）、器

子ども自身が水を加えたり器を使ったりしながら、土の状態の変化を試すことができる環境を整えた。

【布】

大きいフェルト、手ぬぐい、大きいシルク布、大きい布、ざらざらとした感触の布

素材・質感・大きさの異なる布を準備し、隠れる・広げる・畳む・かけるなど様々な関わり方ができるようにした。

【紙】

新聞紙、チラシ、折り紙、花紙、画用紙

素材の異なる紙を準備し、破る、集める、かぶるなど自由に関わる環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

土の活動では、水の量による感触の変化を段階的に感じられるよう三回に分けて実施した。

紙と布の活動では素材ごとの感触や扱い方の違いに気付けるよう、それぞれの素材に触れる機会を設けた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

土（1回目）

子どもたちは指先で慎重に土の感触を確かめる姿が見られた。

「ふわふわ」「冷たい」といった感想が聞かれ、最初は指先で触れていた子どもも徐々に手のひらで触るようになっていた。

土を持ち上げて落ちていく様子を見たり、つまんで確かめる姿も見られた。すぐには触れず、周囲の様子を見ている子もいた。

また、土の中から木片を見つけてそれだけを集める子や、木片を触って「硬いよ」と土との感触の違いに気付き、不思議そうに確かめる姿も見られた。

土（2回目）

少量の水を加えると、トレーの中で水が動く様子をトレーを動かして楽しむ姿、少し固まった土を山にして遊ぶ姿もあった。

水を入れるカップに土を入れて遊ぶ子もあり、水を加える行為そのものを楽しむ姿も見られた。

水を入れることは楽しんでいるが触ることは抵抗がある子もいた。

実際に触れた子からは「冷たい」「ふわふわじゃない」といった違いに気付く声も聞かれた。

土（3回目）

水の中に土を入れる子や、土に好きなだけ水を入れて変化を楽しむ子、水を入れる行為そのものを繰り返し楽しむ子がいた。

触ることに抵抗があった子も、器を使ったり保育者の姿を見て真似たりしながら徐々に触り始めていた。

保育者が泥団子を作ったのを見て同じように泥団子を作り見立て遊びをしたり、粘土のように様々な形を作る姿が見られた。

泥水を叩いて周りに飛び散る様子を楽しんだり、水を加えては叩いて固めることを繰り返ししながら自分の満足のいく泥を作ろうとする姿もあった。年齢が上がるにつれて遊び方がダイナミックになり、「冷たい」「手が汚れた」「ぐちゃぐちゃ」といった感想も聞かれた。

紙

紙を破いたり、大きな紙を頭からかぶるなどして楽しむ姿が見られた。

破いた紙を集めたり、お気に入りの素材の紙を持ち歩く姿もあった。

0歳児は紙を豪快に破いたり、いないいないばあをして楽しんでいた。

1歳児は0歳児同様の活動に加えて、紙を振って音が鳴ることや紙を持つこと自体を楽しんでいた。

2歳児は様々な紙を集めて自分のスペースを作ったり、保育者に布団のようにかけてごっこ遊びを楽しんでいた。

共通して破いたときに「ビリビリー」破くときの音を声にだしていた。

布

紙と同様に布を使いたいいないばあを楽しむ姿が見られた。

手のひらだけでなく、布を踏んで足の裏でも感触を感じていた。

紙とは異なり、布を広げたり畳んだりする姿が見られた。

子どもたちは素材そのものよりも柄や色で選んでいる様子も見られた。

0歳児は保育者とのいないいないばあを楽しんだり、掴んで感触を確かめるようにして遊んでいた。

1歳児はいないいないばあに加えて広げて畳んでみたり、大きい布を保育者と一緒に頭上に広げて屋根のようにする姿も見られた。

2歳児は大きな布を引っ張って遊んだり、椅子に掛けてみたり、海に見立てて泳ぐなど、子ども同士で遊びを展開させ、見立て遊びへと広がる姿が見られた。

<写真>



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動の中で子どもたちは次のようなことを確かめながら遊んでいる様子が見られた。

どのような感触なのか・安全なものなのか・冷たいのが温かいのか・さらさらしているのかざらざらしているのか・ちぎるとどのような音がするのか・どれくらい小さくなるのか・水を加えるとどのように変化するのか

また、子どもたちは友だちや保育者の遊ぶ姿を観察し、安全だと感じると参加する姿が見られた。

一度安心すると繰り返し試しながら遊びを広げていく様子も見られた。

年齢によって素材への関わり方にも違いが見られた。

0歳児は感触そのものを楽しむ姿が多く、1歳児は素材の扱い方を試しながら遊ぶ姿が見られた。

2歳児になると素材を見立て遊びに取り入れるなど、遊びが発展していく様子が見られた。

このことから、子どもにとって「安心できる環境」が新しいことへ挑戦するきっかけとなり、好奇心を高めていくことが感じられた。

土と布・紙では日頃よく触れている布・紙には警戒なく触れて遊び始めていたことから、今後は砂と土の違いなど、普段の生活の中で触れる機会の多さが違う素材同士の反応の違いも確かめながら、子どもの探究活動をさらに広げていきたい。